寄稿

ホッとする つながる・ささえあう 港地域を拓く（前編）

―住民主体の講座から"志縁団体"3年目のプロセス―

静岡県焼津市　焼津福祉文化共創研究会

研究会QRコード

一体、誰が地域を担う？

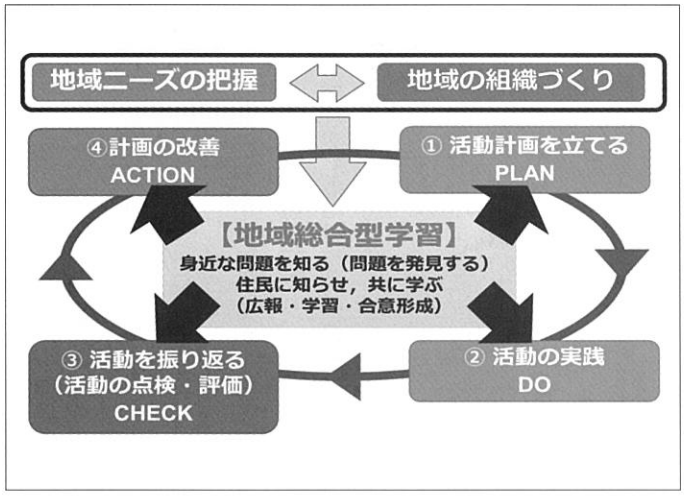
私たちが地域活動に取り組んでいる地域は、静岡県中部に位置する焼津市の南部に面した、二つの自治会約5300世帯（27の町内会）で、中学校区・公民館単位に「港地域づくり推進会」が組織されている。

平成28年4月「港地域ささえあい講座」の開講をにわかに市民に働きかけたこの時期は、長寿者の孤立・孤独、無縁社会、老人漂流社会など、マスコミが大きく取り上げている時。また、阪神淡路大震災、そして、3・11東日本大震災は、改めて、私たちに「地域の絆」等数々の教訓を投げかけていた。

こうした、地域社会の大きな動きに、まずは、地域の課題は何かを学び合う（ニーズ把握）世代や領域を超えた地域主体、住民主体の「地域総合型学習」の必要性を関係機関・団体等に「協働」による実現を呼びかけた。

しかしながら、「なぜ、港地域ささえあい講座なのか？」「なぜ、この講座を立ち上げようとするのか？」「そんな講座は行政や社協がやるべきではないか」「誰かが地域を担ってくれているから関係ないよ」「また、動員した講習をやるの？」など、周囲から問われる意見が多く寄せられた。

「港地域を知る」「ご近所同士が参加して楽しく学び合う」「みんなで支え合うアイデアを出し合う」「学び合う居場所」「私たちの地域で何ができるか」をキャッチコピーに、「プロセス重視」を強調しながら、何とか、3年間講座に取り組むことができた。1年目は介護保険制度改正に伴う社会の大きな課題提起が私たちに向けられていたこの時期、高齢者問題中心の学び合いではあったが、参加者から少しずつ、「地域の福祉問題」を拡げ、身近に地域を学び合う学習の要望も自然に出て、「お互い様」「ささえあいの精神」を復活させ、これからの地域づくりは、「自助」「共助」と「公助」の基に、地域住民一人ひとりが地域の担い手としての意識を高めていくことを少しずつ認識しながら、何とか、3年間の講座は、



住民主体で新たな地域づくりを目指した講座に塗り替えていくことができた。

「港地域にはどのような福祉課題があるのか」（地域ニーズの把握）、そして、「語れる環境により問題解決の第一歩が始まる」（地域総合型学習・ワークショップ）「お互いを知りあうこと、人任せにしない一人ひとりが地域活動に参画する地域環境づくり」の呼びかけに終始努力した。

「港地域ささえあい講座」3年間のプロセス

平成28年度にスタートした講座の実践的体験的学びの3年間は、楽しく学び、講座をマンネリ化させないために、年度ごと講座を検証し、新たな研修プログラムの開拓にも努めた。特に、「専門性と市民性の融合」においては、港地域管内の地域資源をいかに有効に活用できるか、地域住民が地域を知る領域の拡大を、「住民主体の実行委員会」（24名構成）をもとに、協議を重ねた。

平成28年度

⑴企画意図

・動員型ではなく、あくまでも、住民参加型の講座をめざす。

・介護保険制度改正で気づく「創る・参画する福祉」の取り組み。特に、「高齢者問題」を中心とした講座の組み立て。

・災害に強い、日頃のささえあう地域づくりを学び合う。

・生活圏域を知る・学ぶ機会を持つ。

・参加者主体に「ワークショップ」中心に楽しく福祉を学ぶ。

・港地域づくり推進会に福祉活動領域を呼びかける。

⑵運営の工夫

・「港地域づくり推進会」主催、港第14・23両自治会共催による福祉活動領域の連携を図る。

・社会教育（公民館機能）と地域福祉の「融合」による実践の場とする。

最初の講座のテーマは「ご存知ですか私の地域」自治会関係者、民生委員、福祉施設職員、地域活動実践者、若者などが地域を語り合った

・関係機関・団体との協働の取り組み。

・港地域管内の福祉施設見学研修プログラムの開拓（特別養護老人ホーム見学研修をオプションとして実施）。

・運営資金の確保努力「赤い羽根共同募金地域福祉促進助成事業」により実施。

・若者の地域参加を働きかける。

・9機関・団体後援承認（協働）

⑶実行委員会・講師開拓・協力団体

・港第14・23両自治会から推薦された実行委員で組織化。

・4月に事業企画提案をし、9月～1月の間全5回の実行委員会開催。

・高齢者問題中心の講座組み立てにより、講師選定にあたっては、南部地域包括支援センター、先駆的実践団体、市社会福祉協議会、市行政担当者に参加協力を呼びかける。

・「若者発”居場所“あり方研究会」の運営協力を呼びかける。

・さわやか福祉財団・さわやか静岡の全面的支援（助言）。

⑷参加実績

・全3回開講（申込者47名）（延べ153名参加）。

平成29年度

⑴企画意図

・協働による実務的講座とし、「楽しく学び合う居場所」をめざす。

10代から90歳までの市民が和やかなワークショップでふれあい交流型の学び合い

・制度や公助に依存しない「共助」の社会を学び合うことをめざす。
・講座開講のプロセス重視の組み立てに心掛ける。
・世代を超えた「地域総合型学習」により学び合う。
・当事者・実践者の参画講座とし、実体験の研修とする。
・当たり前のことが当たり前にできる社会をめざす「わかる・見える」学びとする。
・地域をトータルにコーディネートできる人財養成に心掛けるとともに、管内の地域資源の開拓に努める。

⑵運営の工夫

・8機関・団体の後援承認（協働）。
・自発的・実務的運営の工夫。
・「楽しく学ぶ」を目標に「アイスブレーク」を始めと終わりに組み入れる演出に心掛けるとともに、振り返りの学習に努める。
・財源の確保については、「静岡県コミュニティづくり推進協議会・コミュニティ活動集団助成事業」により実施。
・福祉問題を「見える化」していくために「講座通信」を発行し、関係方面に配布をする。
・港地域管内福祉施設の見学研修プログラムを講座開講中に継続実施。

⑶実行委員会・講師開拓・協力団体

・港第14・23両自治会から推薦された実行委員23名で組織化。
・6月に事業企画提案をして、7月～3月の間全8回の実行委員会を開催し事業を総括。
・地域には、多方面にわたり福祉ニーズを抱えた住民がいて当たり前の社会、高齢者問題以外の学び合いの要請を受けて、児童及び障害領域の関係者への協力・参画の呼びかけ。
・さわやか福祉財団・さわやか静岡の側面的協力をいただく。
・「若者発”居場所“あり方研究会」の運営協力呼びかけを継続する。

⑷参加実績

・全4回開講（申込者56名）（延べ250名参加）。

「アイスブレーク」を常に導入し、自由に学習環境を変化させた立体型講座が続く

平成30年度

⑴企画意図

・港地域づくり推進会（港第14・23自治会地域組織）の福祉関連事業の具体化による地域活性化をめざす。
・住民主体の啓発学習の取り組みにより、多くの地域住民に「福祉を学びあう」機会を積極的に呼びかける。
・港地域管内13の介護事業所との連携と管内福祉施設体験研修プログラムの開拓。
・幅広い住民層に本事業を啓発できるかを目的に「IT部会」設置と、HP立ち上げ及びQRコード作成に関する作業に取り組み、焼津市全体への啓発活動に取り組む。
・若者の積極的な参加呼びかけ（中学校、企業）。

・これまで、積み上げてきた講座の実績を学習に活かすため、実行委員会に「生活支援研究会」を設置し、実行委員自身の研修の場として「ワークショップ」方式で学び合い、講座のレベルアップを図る。
・実践的体験型施設見学研修プログラムの開拓に努める。
・講座テキスト編集の具体化と「講座通信」「報告書」「DVD制作」編集発行を通じて広報啓発に努める。

⑵運営の工夫

・財源確保の努力「静岡県コミュニティづくり推進協議会・コミュニティ活動集団助成2年目」「焼津市市民公益活動事業補助金」により実施。
・研修環境に変化をもたらし、楽しく学ぶ環境改善に努める。特に、「ワークショップ」は円卓方式を導入して、より身近な関係づくりの工夫やアイスブレークでは、「歌集」を開講前に編集し、「見える化」に努める。
・港地域管内13の介護事業所との協議の場を設けて、地域密着型経営の施設との連携強化を図る。
・開放的施設見学研修プログラム（講座期間中に13の介護事業所を選択して研修参加可能とする）の開拓や、講座開講期間中、施設紹介パネル展示を実施し「介護の社会化」の啓発に努める。
・17機関・団体の後援承認

90歳の今を生きる尊い意見に聞き入る若者の姿

⑶実行委員会・講師開拓・協力団体

・これまでの運営から、自発的参画委員を募り、実行委員会を組織化（25名）するとともに、今後本事業を焼津市全体に拡げていく目的で、介護事業所領域から委員3名を迎える。また、教育領域から1名参画。
・単に、事業を継続開催することなく、今年度は、4月に「準備委員会」を開催し、その後、正式な実行委員会を以て運営する。
・6月～2月の間、全8回の実行委員会を計画的に開催。
・「障がい者支援」のプログラムを改善し、3障害領域から講師を迎える。
・市外の先進地域の事例に学ぶ講座を設け、これからの地域活動の開拓に向け地域実践者を迎える。
・南部地域包括支援センターの協力で、より具体的な高齢者問題、とりわけ「認知症の理解」を講座に組み入れる。

⑷参加実績

・全4回開講（申込者55名）（延べ211名参加）。

こうした、3年間の講座の参加者の実績は、平成28年度は第1回56名、第2回48名、第3回49名、計153名。平成29年度は第1回79名、第2回60名、第3回52名、第4回59名、計250名。平成30年度は第1回50名、第2回54名、第3回52名、第4回55名、計211名で、延べ614名が学び合ったことになる。

約5か月間の講座を終えていよいよ、地域デビューの時